

Cappella Accademica

55th Regular Concert

指揮：宮本 賢二朗
管弦楽：カペラ・アカデミカ

2025年11月22日(土) 開場13:30 開演14:00
浜北文化センター 小ホール

助成／公益信託チヨタ遠越隼一文化基金 公益財団静岡西部しんきん地域振興財団
後援／浜松市、(公財)浜松市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社

ホール内客席では携帯電話など全ての電子機器の電源をお切りください。タブレット端末など光を発する機器も、周囲の方の鑑賞の妨げとなりますので、ご使用にならないようお願いします。

御 挨 捭

本日は、カペラ・アカデミカの第 55 回定期演奏会にご来場頂き有難うございます。

今回は、バロック及び初期古典派の作品を中心に構成して『ドイツ・バロック音楽・初期古典派音楽の光彩』をテーマに、テレマン・ヘンデル・モーツアルト・ハイドンの作品を選んでみました。

テレマンのリコーダーとフルートの為の協奏曲はリコーダーとフルートですが 2 本のフルートで演奏して見たいと思います。

ヘンデルの合奏協奏曲 Op3 No.1 HWV312 はヘンデルの代表的な合奏協奏曲作品の一つでオーボエ・フルート・ファゴット・チェンバロ及び独奏ヴァイオリンが活躍する作品です。

モーツアルトのディヴェルティメント K.137 (125b) は、彼が 16 歳の時の作品でイタリア旅行からザルツブルクに戻って来た後に作曲された弦楽器のみの若々しい作品です。

ハイドンの交響曲『驚愕』は、誰でもご存じの名曲で 2 楽章の ff の不意打ちの存在により、ハイドンの交響曲の中で最も有名な曲です。

いずれの作品もバロック時代・初期古典派時代に作曲された作品でその真髄を垣間見ることが出来ると思います。

今後ともサロン的な雰囲気で楽しい演奏会作りを心掛けながら、更に新たなる成長に向かって精進して参りたいと考えております。これからも私達の活動を温かく見守って頂き、ご声援を賜りますよう心よりお願い申し上げる次第です。

カペラ・アカデミカ団員一同

出 演 者

宮本 賢二朗(指揮)

国立音楽大学を経て、ドイツ・ザールラント大学大学院修了（博士）。帰国後は静岡県を中心に名古屋、東京でオペラ公演、合唱・オーケストラ指揮の経験を積む。これまでにアンサンブル・ムジーク浜松（女声合唱団、弦楽合奏団、オーケストラ）音楽監督・指揮者（2000-2006 年），NPO 浜松フィルハーモニー管弦楽団客演指揮（2003-2006）を務める。常葉短期大学音楽科、静岡産業大学講師を経て現在、岐阜聖徳学園大学 教育学部音楽専修及び大学院国際文化研究科 准教授、福井大学連合教職大学院非常勤講師。研究・教育と演奏の広い領域で「音楽が果たす社会的貢献」をテーマに活動を続けている。

カペラ・アカデミカ

浜松と豊橋在住の専門家、アマチュアにより結成された室内合奏団で、今は亡きバロック音楽の大家で、現天皇陛下が師事された故濱田徳昭先生により命名され、1974 年（昭和 49 年）9 月 2 日に誕生。濱田先生のもとで主に宗教曲の演奏法などを学び、その後合奏団独自の定期演奏会を年 2 回及びその他の演奏会などを開催し、室内アンサンブルのインティメイトな世界を創り上げることを目標としている。

1 st Violin	2 nd Violin	Viola	Cello	Double bass	Harpsicord
◎今井 重人	池本 かおり	木下 正明	小山 友康	仲田 雅史	釤本 真理
磯部 幸恵	磯貝 ゆり	小林 はる奈	深谷 尚司		
寺田 洋子	釤本 英範	船山 敏	深谷 順子		
間部 ずさ	末田 良	吉川 紀彦			
	村上 香織				
Flute	Oboe	Bassoon	Trumpet	Horn	
石川 真理 續 真樹	大橋 弥生 榑林 淳	斎藤 善彦 金子 愛	岡部 比呂男 福田 徳久	佐藤 博子 末永 雄一郎	

◎はコンサート・マスター

プログラム及び曲目解説

◆ゲオルグ・フィリップ・テレマン (1681年～1767年) リコーダーとフルートの為の協奏曲 木短調 TWV52:e1

ゲオルク・フィリップ・テレマン作曲《リコーダーとフルートのための協奏曲 木短調 TWV 52:e1》は、18世紀前半のドイツ音楽における傑作の一つであり、独自の典型例として知られています。リコーダー（今回はフルート）とフルートという性格の異なる二つの木管楽器を独奏として用い、弦楽と通奏低音を伴奏に据えることで、繊細かつ多彩な音響世界を築いています。全4楽章構成で、第1楽章は莊重なラルゴで幕を開け、バロック的な深みと陰影を感じさせます。第2楽章アレグロでは二つの独奏楽器が軽快な対話を繰り広げ、活発なリズム感が魅力です。第3楽章ラルゴは穏やかで歌心にあふれた旋律が特徴で、テレマンの抒情性が際立ちます。終楽章はプレストとなり、舞曲風の推進力と明快な構成により、全体を力強く締めくくります。この協奏曲には、テレマン独自の“フランス風エレガンス”と“ドイツ風対位法”、さらには“イタリア風の活力”が融合しており、国際的な様式を自在に操った彼の才能が如実に表れています。本作はその代表的成果であり、今日でも室内楽や協奏曲レパートリーとして高く評価され続けています。

◆ゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデル (1685年～1759年) 合奏協奏曲 Op.3 No.1 HWV312

ヘンデルの《合奏協奏曲 Op.3 No.1 変口長調 HWV 312》は、18世紀前半の1734年頃ロンドンで出版され人気を博した一連の「合奏協奏曲集「Op.3」」の冒頭を飾る作品で、全3楽章から構成されています。本作は劇場や宮廷における演奏会の序曲的役割を担い、華やかさと親しみやすさを兼ね備えています。特に楽章間に明確な区切りがあるわけではなく、自由な組曲的形式が特徴です。第1楽章は序曲風の堂々とした音楽で始まり、リズミカルな推進力と力強さが印象的です。続く部分では、2本のオーボエと弦楽器が対話的に扱われるなど、繊細なアンサンブルが展開されます。中間部にはヴァイオリンの独奏も登場し、コンチェルト・グロッソの特徴である「コンサートーノ（独奏群）」と「リピエーノ（全奏）」の対比が見られます。最終部は軽快な舞曲風で、快活なリズムと明朗な旋律が聴く者を魅了させます。この作品は、当時ヘンデルが楽長を務めていたロンドンの貴族や音楽愛好家の嗜好に応じて書かれたとされ、フランス風の洗練さとイタリア風の華やかさ、そしてドイツ的対位法の融合がみられます。形式の自由さや素材の多様性は、ヘンデルの柔軟な作曲技法と創造力を示す好例であり、バロック期の合奏協奏曲の魅力を凝視した作品と言えます。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト (1756～1791) ディヴェルティメント 変口長調 K.137 (125b)

モーツアルト (1756～1791) の《ディヴェルティメント 変口長調 K.137 (125b)》は、1772年に16歳のモーツアルトがザルツブルクで作曲した三つのディヴェルティメント (K.136～138) の一つです。この作品は弦楽合奏のために書かれ、形式的には室内楽と交響曲の中間的な性格を持ちます。全3楽章からなり、明快で親しみやすい旋律と優雅な表現が特徴です。第1楽章はアンダンテで始まり、ゆったりとしたテンポと和声の豊かさが印象的です。第2楽章のアレグロ・ディ・モルトは生き生きとした運動感があり、若きモーツアルトの才気が光ります。終楽章はアレグロ・アッサイで、快活な主題が交互に展開される軽快な音楽が展開されます。もともと貴族の余興や祝宴のために作られたジャンルであるディヴェルティメントですが、この作品には若い作曲家の創造性と技術が凝縮されており、単なる娯楽音楽を超えた芸術的な深みを感じさせます。今日では、モーツアルト初期の傑作の一つとして高く評価されています。

~~~~~休憩（15分）~~~~~

### ◆フランツ・ヨーゼフ・ハイドン (1732～1809) 交響曲第94番ト長調《驚愕》

ハイドンの交響曲第94番ト長調《驚愕》（「サプライズ」）は、1791年、ロンドンでの演奏会のために作曲された「ロンドン交響曲」のひとつで、ハイドンが56歳の円熟期にあたる作品です。全4楽章から成り、第2楽章の突然の大音響によって「驚愕（サプライズ）」という愛称で親しまれています。第1楽章は快活なソナタ形式で

始まり、生き生きとした主題が展開されます。第2楽章はアンダンテ、穏やかな変奏曲形式で進みますが、冒頭の優しい旋律の直後に突如フォルテの和音が鳴り響き、聴衆を驚かせる仕掛けが施されています。この仕掛けは、居眠りしている聴衆を目覚めさせようとしたという逸話が有名です。第3楽章は典型的なメヌエットで、躍動感のある舞曲的な性格が魅力です。終楽章はプレストで、快活で軽快な主題が反復と展開を重ねながらエネルギーに曲を締めくくります。全体としてユーモアと構成美、そして聴衆へのサービス精神が見事に融合された作品であり、ハイドンの創造性と演奏会向け作品の達人ぶりがうかがえる代表作のひとつです。

## 定期演奏会記録（2015～）

| 演奏会    | 日時           | 会場名          | 指揮者  | プログラム                                                                                                                                                                                |
|--------|--------------|--------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 46 回 | 2015. 11. 23 | 浜松市浜北文化センター  | 吉川紀彦 | パーセル/アブデラザール組曲（ムーア人の復讐）<br>ルクレール/ヴァイオリン協奏曲ハ長調 Op. 7-3<br>チマローザ/2 本のフルートの為の協奏曲ト長調<br>ハイドン/交響曲第 1 番 Hob. I-1<br>モーツアルト/交響曲第 37 番ト長調 K. 444                                             |
| 第 47 回 | 2016. 11. 25 | 浜松市浜北文化センター  | 吉川紀彦 | J. S. バッハ/カンタータ第 140 番<br>モーツアルト/2 つのヴァイオリンの為のコンチェルト-ネハ長調 K. 190 モーツアルト/交響曲第 21 番イ長調 K. 134                                                                                          |
| 第 48 回 | 2017. 12. 9  | 浜松市福祉交流センター  | 吉川紀彦 | ヘンデル/水上の音楽（抜粋）<br>ヘンデル/メサイア（抜粋）                                                                                                                                                      |
| 第 49 回 | 2018. 10. 20 | 浜松市勤労会館 Uホール | 吉川紀彦 | ヘンデル/ラルゴ（オンブラ・マイフ）<br>ヘンデル/私を泣かせてください<br>モーツアルト/主を賞め賛えよ<br>ヴィヴァルディ/2 つのトランペットの為の協奏曲ハ長調 RV. 537<br>チマローザ/『宮廷樂士長』<br>モーツアルト/ディヴェルティメント第 2 番ニ長調 K. 131<br>ハイドン/交響曲 85 番変ホ長調『王妃』 Hob. -1 |
| 第 50 回 | 2019. 10. 19 | 浜松市福祉交流センター  | 吉川紀彦 | テレマン/3 つのトランペットとティンパニーの為の協奏曲<br>J. S. バッハ/ブランデンブルク協奏曲第 5 番 BWV1050<br>ヘンデル/『王宮の花火の音楽』全曲<br>ハイドン/交響曲第 31 番ニ長調『ホルン信号』 Hob. I :31                                                       |
| 第 51 回 | 2021. 10. 30 | 浜松市勤労会館 Uホール | 吉川紀彦 | J. S. バッハ/チェンバロ協奏曲第 6 番ヘ長調 BWV1057<br>W. F. バッハ/シンフォニアニ短調 FK65 (アダージョとフーガ)<br>C. P. E. バッハ/シンフォニアニ長調 Wq183/1<br>J. C. バッハ/シンフォニアニ長調作品 18 の 4<br>J. S. バッハ/管弦楽組曲第 3 番ニ長調 BWV1068      |
| 第 52 回 | 2022. 10. 29 | 浜松市福祉交流センター  | 吉川紀彦 | ヴィヴァルディ/合奏協奏曲 RV569 ヘ長調<br>マンフレディーニ/2 つのトランペットの為の協奏曲ニ長調<br>テレマン/組曲ニ長調 TWV55:D21<br>ハイドン/交響曲第 8 番『夜』ト長調 HOV. I : 8                                                                    |
| 第 53 回 | 2023. 10. 21 | 浜松市福祉交流センター  | 吉川紀彦 | スカルラッティ/オペラ『グリセルダ』序曲<br>サンマルティーニ/シンフォニアト長調 JC39<br>シュターミッツ/シンフォニアニ長調 Op5-2<br>J. C. バッハ/シンフォニアニ長調 (?W CInc2)<br>ディッタースドルフ/シンフォニー1 番は長調                                               |
| 第 54 回 | 2024. 10. 26 | 浜松市福祉交流センター  | 吉川紀彦 | コレッリ/クリスマス協奏曲<br>スカルラッティ/合奏協奏曲形式シンフォニア第 1 番ヘ長調<br>バッハ/ヴァイオリン協奏曲第 2 番ホ長調 BWV1042<br>ヘンデル/組曲『水上の音楽』全曲                                                                                  |